

教育実習プログラムの検討

——鹿児島女子短期大学生の保育所及び幼稚園の実習報告——

坪井 敏 純

本研究では保育所実習の実態について報告し、坪井（1988）の幼稚園実習の報告とあわせて、本学の幼児教育専攻生の教育実習プログラムを検討することが目的である。本学では、保育所実習は2年次の7月下旬から8月上旬にかけて3週間行なわれている。この実習に先立ち、学生は1年次の後期に附属幼稚園で約2週間（幼稚園実習1）、さらに2年次の6月に2週間の幼稚園実習（幼稚園実習2）をすでに経験している。保育所実習のあと施設実習が行なわれるが、本研究は保育所と幼稚園の幼児教育の実習に焦点を当てた。

まず幼稚園実習の報告で指摘された問題を要約すると、次のようにまとめられる。

1. 接する幼児の年齢が限られている。

2歳以下の幼児と接する機会は幼稚園実習では無いのは当然であるが、配属されたクラスの移動がなく、一つのクラスで実習するケースが77%であった。そのうち混合保育（あるいは縦割り）を除くと、60%の学生は単一の年齢で構成されたクラスしか経験していない。つまり幼児の発達の変化を理解するためには良い状態とはいえない。

ただ、実習生を指導する担当教師の保育をある程度まとまった期間で見ることができるので、保育の流れや幼児への関わり方や配慮の仕方などを知る機会が得られることも確かである。また幼児との関係を深め、それによって幼児の理解を深めることができるといった点も無視できない。

2. 設定（計画、または中心活動）の担当保育の回数が少ない

研究（評価）保育を除けば半数の学生はわずか1回の担当保育しか経験しておらず、意図的な計画に基づく幼児へのはたらきかけを殆どしていない。これは学生自身の責任において、実際に自分の保育活動を創り、そこで適切な幼児への援助を考えるための機会としてはあまりにも少ない。

そして当然の帰着としてこれは指導案を立てる回数にも影響し、結局自分の幼児教育をいわば実践し確かめて行く活動が十分に与えられていない結果となっているのである。

しかし逆に設定保育を担当しないことによって現場の保育を十分に見ることができ、正に保育活動の観察学習の機会が増えることも事実である。もともと実習期間が実質として12日というわずかな日数であり、父の日参観などの行事や地域によっては研修大会などのために実習生が利用できる時間は非常に

少ないというのが実状である。また担当保育を減らし幼児とできるだけ自由に接して、幼児への理解を深めさせようとする幼稚園も少なくない。

上述の2つの問題点は、実習に何を望むか、ほかの実習との関係はどうかといった点から考慮しなければならないことは言うまでもない。そこで先ず、保育所実習の調査を報告し、その結果と幼稚園実習の調査結果をまとめて、教育実習のあり方を探ってゆくことにする。

方 法

調査時期 1988年1月

調査対象 鹿児島女子短期大学児童教育学科幼児教育専攻2年生。この学生は幼稚園実習の調査対象（坪井，1988）と同じ学生である。

調査内容 調査項目は大きく分けて次のようなものであった（使用したアンケートは付録として掲載した）。

1. 実習園のクラス編成について
2. 日程と、幼児と実習生の活動内容について
3. 実習記録及び指導案について
4. 実習中の保育について
5. 保育所実習の感想

手 続 き 付録のアンケートを配付し、1週間後に回収した。回収率73%（133名）

結果と考察

アンケートのなかから本研究に必要なものを選択して報告する。また幼稚園実習との比較は、全て幼稚園実習Ⅱに基づいておこなわれている。

1. 実習するクラスのローテーション

実習期間中に何度か実習するクラスが変わり、異なる年齢の幼児を対象にして実習する場合が比較的小さい。そのパターンは次のように大別できる。カッコ内はその割合である。

a. 固定（8%）

クラスの移動がない。

b. 日替わりローテーション（7%）

毎日クラスの移動があり、実習する年齢が違う。

c. 重複ローテーション（22%）

同一のクラスで数日（2-4日）実習したあと、別のクラスに移動する。各クラスの実習期間が短いのでそれぞれのクラスをある程度の期間を置いてもう一度実習する方法である。典型的には、クラ

スのローテーションを同じ順序で2度繰り返すような方式が採られる。

d. 一回りローテーション (63%)

一つのクラスの実習が比較的長く連続して行なわれ、重複ローテーションとは異なり1度実習したクラスには戻らない方式である。

幼稚園実習ではクラスの移動を経験した学生は23%であったが、保育所実習では92%の学生が経験している。

2. 実習を経験したクラスの年齢構成 (図1)

図1は幼稚園実習と保育所実習を比較したものである。保育所の実習園のなかには、同じ年齢でも異なるクラスに分けられている場合がある(例えば同じ園で、3歳児の属するクラスが3歳児だけのクラスと3歳児と4歳児の混合クラスの2つに分かれるなど)。したがって図1のデータにはそのような重複したケースが若干含まれている。

クラスのローテーションによって、幼稚園実習では経験しなかった年齢の幼児について実習が行なわれているだけでなく、接する機会があまり無かった3歳児や2歳以下の幼児の保育を殆どの学生が実習している。

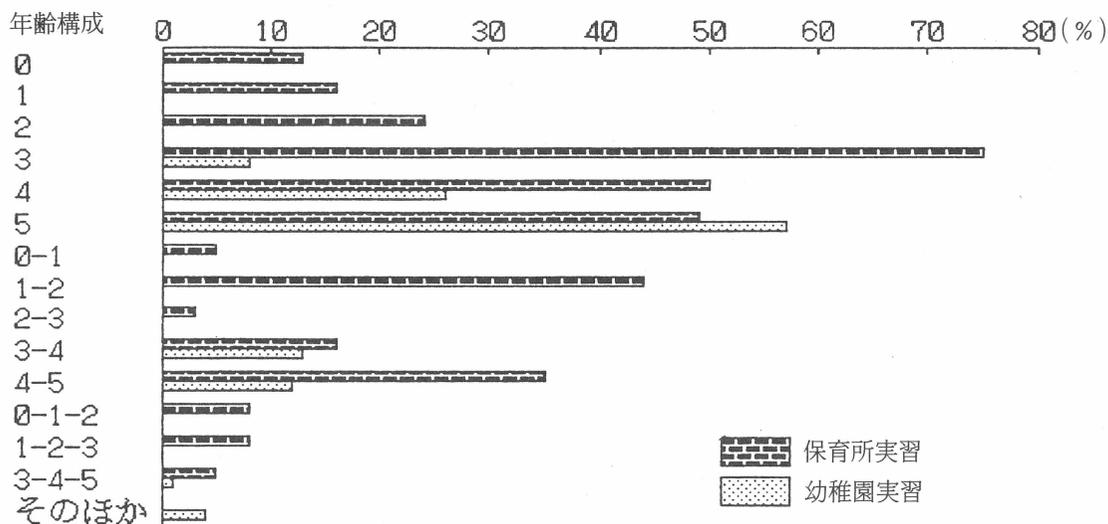


図1. 配属されたクラスの年齢構成と実習生の割合。0-1のようにハイフンでつながれたものは、混合クラスを意味する。従って0-1は1歳児と0歳児の混合クラスである。

3. 全日(1日)保育について

学生が作成する指導案として、全日を担当する場合の日案と、部分保育を担当する場合の細案(部分案)がある。そのため全日保育と部分保育に分けて検討した。保育所実習では全日保育の経験者は41%であったが、幼稚園実習では56%で保育所実習のほうが少ない(図2)。しかし幼稚園実習では経験者のうち70%は1回の経験であるのに対し、保育所実習では3回以上の経験者が50%を越えている点は注目される。

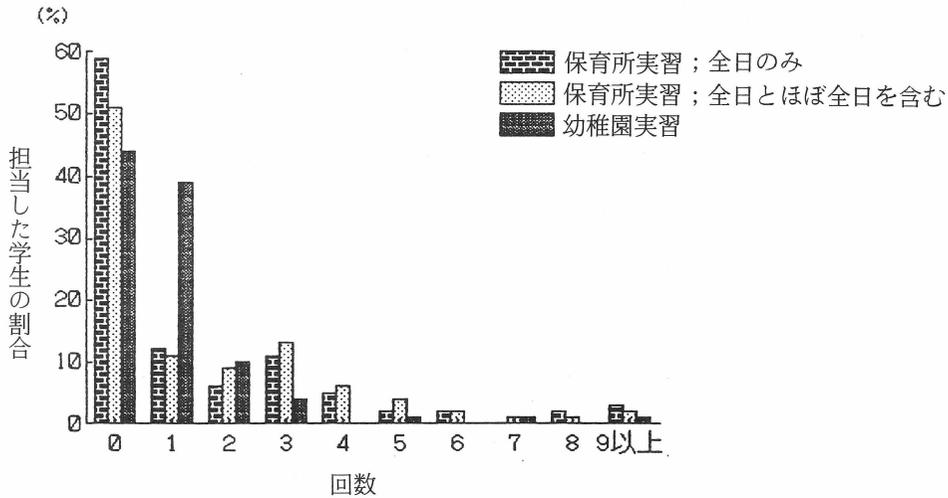


図2. 全日（1日）保育担当回数

もともと保育所では幼児の年齢や人数によって、1つのクラスに複数の担任が必要になるので、1日の全ての活動を1人が担当することは物理的な面あるいは労力の面、さらにはクラス担任としての責任上から不可能な場合がある。そのため一部の活動については（多くの場合は食事、午後の睡眠、あるいは登園や降園時の自由遊び、さらには宗教的な活動など）共同や参加といった形になりやすいと考えられる。そこで図2では「ほぼ全日」保育という名称をつけ、その保育では中心活動を必ず担当し、一部の活動については共同あるいは参加して保育にあたったケースとして分類し付け加えた。

図3は全日及び「ほぼ全日」保育を担当する学生数を実習日ごとに調べたものである。同じ学生が数回にわたって全日あるいは「ほぼ全日」保育を経験しているので、このデータには重複したものも含まれている。5日目は金曜日にあたり、実習の前半の締めくくりという意味で比較的多くの学生が保育を任されたのであろう。

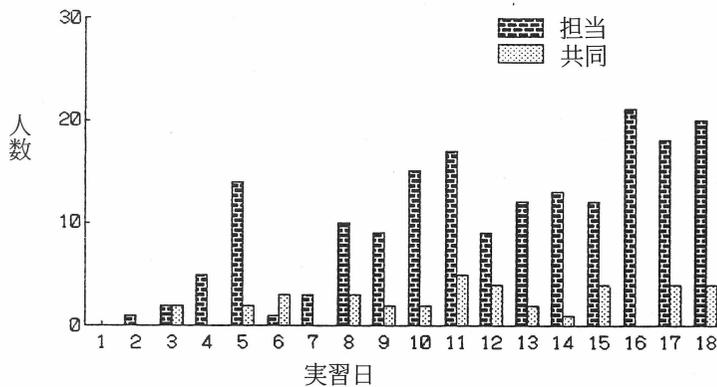


図3. 計画保育担当 実施日と人数（全日，ほぼ全日を含む）

「担当」保育とは、指導案を実習生が作成し、保育活動も一人で行う場合であり、「共同」とは指導案を担当の保育者と共同して作成し、保育は実習生が主導権を持って行い、担任は補佐するという場合を意味する。

図4は全日及び「ほぼ全日」保育のクラスの年齢構成である。3歳児クラスが一番多いが、4歳児と5歳児の混合クラスや1歳児と2歳児の混合クラスを担当する機会が多い点も見逃せない。

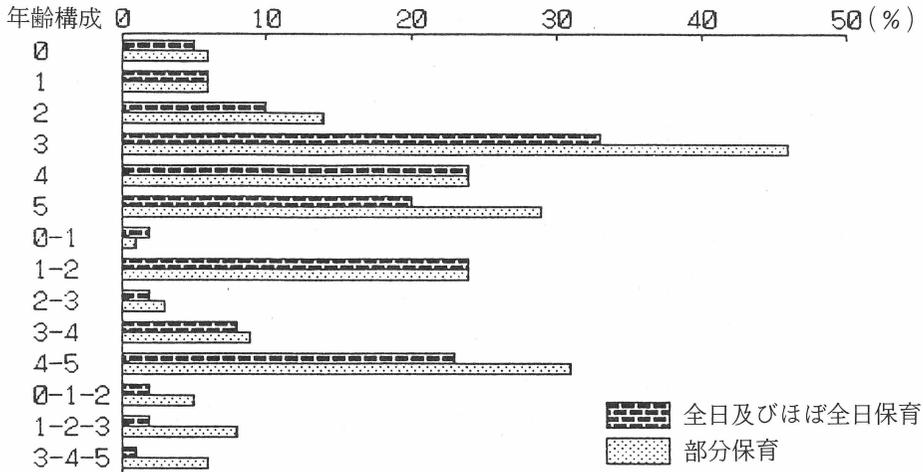


図4. 研究保育を含めた中心活動の担当クラスの年齢構成

4. 中心活動（設定保育）の担当保育について

部分実習として中心活動を担当する回数と学生の割合を示したものが図5である。このデータには全日保育で行う中心活動は含まれていない。したがって、全日及び「ほぼ全日」保育のときのみ中心活動を担当した学生は除かれている。そのため図5では細案のみを作成する回数を表したものである。そこで図6により、全日、「ほぼ全日」及び部分保育を全て含め、中心活動を担当した回数を示した。保育所実習の場合、指導案の作成を担当教師と共同で行なうことでその指導がなされ、中心活動にたいして学生の積極的な参加を求めているようである。図7は、図6の担当回数について、保育所実習と幼稚

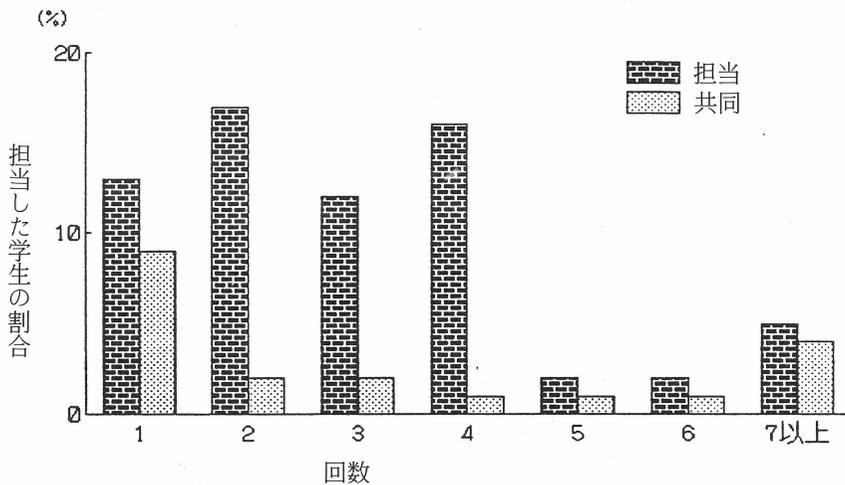


図5. 部分保育における中心活動の担当回数

園実習を比較したものである。担当回数の平均は、保育所実習では3.8回、幼稚園実習では2.8回となっており、保育所実習のほうが中心活動の担当経験が約1回多い。ただ多少問題なのは、指導案を全く書かなかった学生が4名いる点である。

図4の担当クラスの年齢構成を見るとやはり3歳児が多いようであるが、5歳児クラスや4歳児と5歳児の混合クラスが比較的多く、全日保育と比べると担当年齢が高いといえる。この理由の一つは、担当回数の中に研究保育（評価保育）の担当が含まれているためではないかと思われる。つまり研究保育は3歳以上の幼児、多くは年中、年長児のクラスで行なわれることが多いからである。

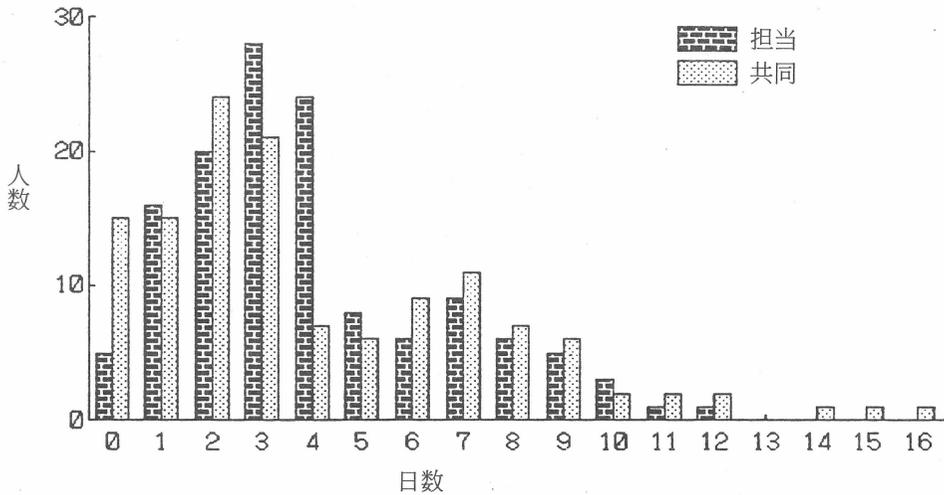


図6. 中心活動の保育担当日数 (全日, ほぼ全日, 設定のみを含む)

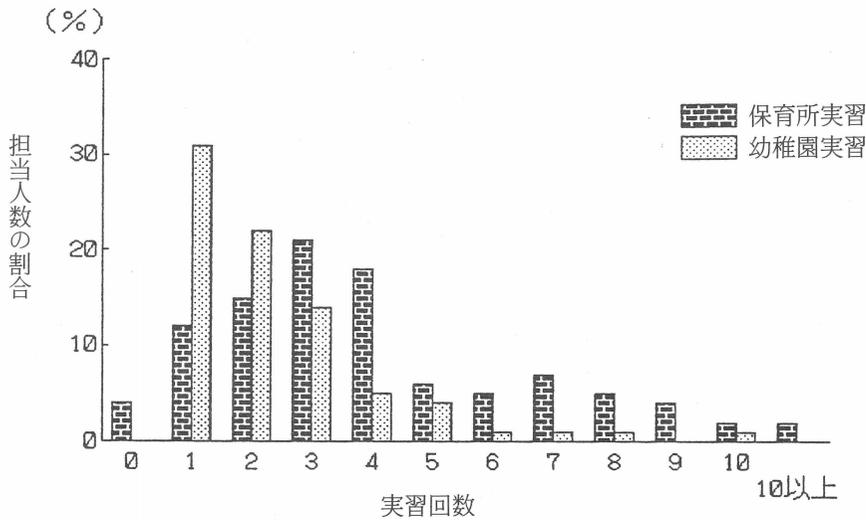


図7. 研究保育を含めた中心活動の担当回数

5. 実習ノートについて

回答は自由記述のため、複数の回答があった。実習ノートに関して指導を受けた主な内容は次のようなものであった。カッコ内は件数である。

1. 記録方法 (11)

記録内容、例えば幼児の活動、考察、反省、指導上の留意点などを区分して書くといったものが殆どであった。

2. 記録内容

- a. 保育中の保育者と幼児の相互作用を詳しく書く (5)
- b. 観察の狙いを定める (2)
- c. 感想 (5), 幼児の実態 (1) を詳しく書く
- d. 反省の内容が貧弱 (2)
- e. 食事の献立を正確に書く (1)
- f. 簡潔に (2), 詳しく (3)

3. 言葉の使い方

- a. 誤字脱字 (3)
- b. 文字を丁寧を書く (1)

4. 特になし (57)

5. ほめられた (50)

以上のような指導がなされたが、保育所実習に先立って行なわれた幼稚園実習と比較するとはるかに少ない。幼稚園実習の経験が生かされているといえよう。

6. 指導案について

指導案の書き方について指導された主な内容は次のようなものであった。カッコ内は件数である。

1. 記録内容

- a. 幼児の実態を詳しく (2)
- b. 幼児の活動を詳しく (2)
- c. 指導上の留意点を詳しく (6)
- d. 簡潔に, 1枚以内で (11)

2. 記録方法

- a. 当たり前なことは書かない (3)
- b. 第三者が読んでも分かるように (3)
- c. 短大の書き方は採用していない (2)
- d. 誤字脱字 (2)

3. 指導案の意義について (2)

4. 書かなかった (4)

5. 特に指導はなかった (69)

6. ほめられた (40)

実習ノートの場合と同様に幼稚園実習の経験が十分に生かされているようである。しかし前述したように指導案を書かなかった学生が4名もいる点は、やはり問題であろう。

7. 幼稚園と保育園との違い

幼児教育について理解を深めるために、幼稚園児とは生活環境の異なる幼児との接触によって、違った角度から教育的配慮や援助とは何かを考える機会を保育所実習は与えてくれる。そこで、学生が感じた幼稚園と保育所の違いを自由に記述させ、学生の保育所に対する考え方(感じ方)を調査した。カッコ内は件数である。

1. 幼児の実態について

- a. しっかりしている, たくましい (27)
- b. のびのびしている (8)
- c. 下の子の面倒をよく見ていた (8)

2, 3歳はしっかりしているが, 4, 5歳は甘えん坊だ, といった感想が6件あった。

2. 保育内容について

- a. しつけが強調されたり, 自由時間が多すぎて知的な学習面が足りないのではないか (19)
- b. ゆとりのある保育 (14)
- c. 年少児にたいしては, 教育というよりお守りに近い (2)
- d. 準備や後片付けなど, あまりにも保母が全てやりすぎる (2)

3. 保育者と幼児の関わり

家庭の雰囲気 (23), 保母は母親といった感じ (5)

同じ年齢でも幼稚園と保育園では違うといった感想が多かった。特に基本的な生活習慣に関するものは保育園児が勝っていると答えた学生は20%を越えている。しかしその反面, しつけばかりを強調して, 知的発達を促す働きかけが少ないのではと疑問をもつ学生15%弱あった。

8. 保育者実習の意義

幼稚園実習との比較で保育所実習での経験とは何か, それが学生にとってどのような意味があるのかを探るために設けた質問であった。主な回答は次のようなものであった。カッコ内は件数である。

1. 幼児理解

- a. 発達の変化が理解できた (13), 乳児の発達を知ることができた (34)
- b. 障害児, 問題児への理解が深まった (6)
- c. 幼児の気持を理解できる(感じられる)ようになった (15)
- d. 幼児に対する愛着が強くなった (7)

2. 保育について

- a. 保母の役割について理解が深まり, その重要性を強く認識した (30)
- b. 幼稚園教諭ではなく保母への希望が強くなった (11)

- c. 自信がついた (5)
 - d. 年齢別の教材を用意する大切さや難しさを感じた (4)
3. 家庭との関係
- a. 母親に関して：育児に熱意のない親を見た (1), 母親の愛情の大切さを感じた (1)
 - b. 親との接触があり、得るものが多かった (7)
 - c. 父母との接触で、保母としての望ましい人格とは何かを考えさせられた (1)

幼稚園とは異なり、幼児と生活を共にするといった関わり方をするため、保育者と幼児との関係が深まることで、保育者の影響力を実感したという感想が多い。また、幼児の持つ感情を少しではあるが理解できるようになった気がする」と答えた学生が20%いる。

結 論

幼稚園実習1, 幼稚園実習2, そして保育所実習と続く教育実習がその目的を十分果たしているかどうかを検討することが本研究の主旨であった。では教育実習には(特に幼児教育に関して)どのような内容がふさわしいものとして求められるのだろうか。ここでは簡単に次の3つにまとめてみた。

(1) 大学で学んだ幼児教育の理論と技術を実践, 研究する

教育とは, 保育とは, 福祉とは, といった大きなテーマはあるが, まずはいわゆる「教授-学習過程」に関連するものが上げられる。これは何をどのように教えるかという問題にかかわるものである。さらに乳幼児の心身の発達に関する理解などもここに含められる。

(2) 保育者(教師)という立場の理解を深める

乳幼児にたいして教える側, 保護をする側, あるいは援助する側に実際に立って, その望ましいあり方などを考え, 実践することは保育者という立場をよりよく理解できるであろう。

(3) 大人(社会人)としての生活を体験する

現場の保育者などとの接触によって, 働くこと(職業)に関する理解が深まるであろう。実習生とはいえ幼児のまえでは「先生」であり, その生活は職業人に近いものである。

この3つのうち, 「2」と「3」は「1」を実践するなかで伴われてくる場合が多いであろう。特に教育実習の中心的な目的はやはり「1」であり, 「2」や「3」は重要な意味を持っているが, 具体的な実習プログラムのなかにどのように組み込むかは難しい。そこで本研究では前回の幼稚園実習の報告の範囲に留め検討を加えることにする。

幼稚園実習の報告で上げたいいくつかの問題について3つの実習を比較してみよう。

幼稚園実習1では実習のクラスは固定されており, その担任が責任をもって学生を指導する体制をとっている。この実習では特に実習ノートと指導案の書き方について重点的に指導される。もちろん作成した細案によって実際に保育を部分的ではあるが担当することになる。このような成果が幼稚園実習2や保育所実習に生かされ, 実習ノートや細案についてほとんど重大な注意を受けることがない。

問題は, 結局このような長所が逆に短所を生みだしている点である。例えば, 学生の行なう部分保育が実習の殆どを占めるため, そのほかの学生は観察に回ることになるので, 現場の保育者の実際の保育

活動を観察する機会がかなり少ない。実際の保育を殆ど見たことがなく、そのクラスの幼児を十分把握しないうちに学生が設定保育を行なうことはかなり無理があるといわざるをえない。この点は幼児の幼稚園での生活にも悪影響を及ぼしているのではないかと思われる。

もう一つの問題は実際に幼児と自由に接する機会も少なくなり、幼児との人間関係を深める経験に乏しい実習になっている点である。

しかし指導案の作成を幼稚園実習2に任せることはできないであろう。例えば日案を幼稚園実習2で書かない学生は44%あり、設定保育の細案を研究保育のときだけしか書かなかった学生が30%近くいるのである。つまり幼稚園実習1で細案を書かなければ、幼稚園実習2の研究保育で初めて、しかもたった1度だけ作成することになるのである。これでは十分な指導案を作ることは不可能である。さらにつけ加えるならば、幼稚園実習1では一人のクラス担任が、そのクラスに配属された学生の実習にたいして責任を持ち継続して指導に当たっていることである。初めて実習する学生の指導上として望ましい体制であろう。

幼稚園実習2では、幼稚園実習1と比べ参加という形で担任の保育者の保育を観察する機会が多く与えられている。そして幼児と自由に接する機会が多いので、幼児への理解が深まり、同時に良好な人間関係を作る経験を積むことができるであろう。

問題点としては、幼稚園実習1と比べ指導体制がかならずしも十分ではなく、実習園によってその方法や内容はまちまちであることが上げられる。また幼稚園実習1と同様に実習のクラスがほとんど固定されており、単一の年齢構成のクラスに配属された学生は60%に及んでいる。自由遊びの時間などで、異年齢の幼児と接する機会があるとはいえ、発達的变化を見るには十分ではない。さらに設定保育(中心活動)の担当保育は研究保育を除けば、52%の学生が1回しか経験していない。幼稚園実習1や短大で学んだ理論と技術を実践、研究するという目的を達成するにはあまりにも不十分である。

結局2つの幼稚園実習で残された共通の問題は、幼児の発達的变化を見るためには、実習のクラスを移動する必要がある点と、指導案を作成し中心活動、ないしは全日(1日)保育を担当する回数を増やす点である。

今回の保育所実習の調査では90%を越える保育所で、異なる年齢構成のクラスを移動しながら実習するという配慮がなされていることが明らかにされた。そして全日と「ほぼ全日」を加えた一日保育を担当した学生は、約50%に達している。幼稚園実習2でも半数以上の学生が1日保育を経験しているが、保育所実習の場合は経験者の半数は3回以上である。

また中心活動の担当保育も平均3.8回と多く、そのクラスの幼児の年齢構成も異なる場合が多い。そして実習の殆どが参加実習という形をとっており、長時間幼児と接する保育所実習では幼児の理解を深める良い機会となっているといえるであろう。

以上を総合すると、保育所実習までを終えて、ある程度幼児教育のための実習としての形が整って来るといえるであろう。今後は幼稚園実習1で残された問題を改善し、幼稚園実習2及び保育所実習の基礎となるようにより充実を計って行かなければならないだろう。むしろ今回の調査は実習の内容にまで踏み込んでいないので、その目的が3つの実習で達成されているとは断言できない。また実習についての検討内容がこれで全て提出されているわけではない。特に福祉施設としての保育所の実習が望ましい

状態であるかどうかは検討する余地があるのではないと思われる。

参 考 文 献

- 大森 隆子 1987 実習プログラムの検討について 全国保母養成協議会第26回大会発表論文集
坪井 敏純 1988 幼稚園教育実習プログラムの検討——鹿児島女子短期大学生の実習報告——
鹿児島女子短期大学「紀要」, 23号, 63-75

付 録

保育所実習アンケート

1. 実習園について

1-1. 公立・私立 (マルを付けてください) 保育所名 _____

1-2. クラスの種類と数 (クラスの数を記入してください)

年長 (5歳児) _____ 年中 (4歳児) _____ 年少 (3歳児) _____ 2歳児 _____

1歳児 _____ 0歳児 _____ : 混合 (5, 4歳児) _____ 混合 (4, 3歳児) _____

混合 (5, 4, 3歳児) _____ 混合 (3, 2歳児) _____ 混合 (2, 1歳児) _____

_____ 混合 (1, 0歳児) _____ そのほか _____

2. 実習内容について (記入用紙は別紙)

実習期間中の活動内容を次の3つに分類し, 毎日の時間帯に分けて下の表に記入してください。なおそれぞれの時間帯の幼児の活動も必ず書き添えてください。

実習の活動内容の分類

「担当」……「T」, 「共同」……「C」, 「参加」……「S」, 「観察」……「K」

幼児の活動内容の分類

「自由遊び」……………「自」, 「設定 (計画) 保育」……「設」,

「食事 (おやつ)」……「食」, 「体操」……………「体」,

「睡眠」……………「午」

この分類以外の内容 (例: 登園, テレビ視聴, 宗教的行事, 降園など) については記入欄に書ける範囲で記述してください。時間についてはだいたいの区切りで構いません。

3. 実習中に指導を受けたことについて

次の事柄について自由に記入してください (ほめられた点や注意を受けた点)

- 3-1. 実習ノートのつけ方について
- 3-2. 細案や指導案などの書き方について
4. あなたを指導・担当した先生について
 - 4-1. どのような印象を持っていますか
 - 4-2. あなたに対する指導内容や方法について
5. 実習中にどうしてよいか判らなくなったことがありますか。あれば箇条書にしてください。
6. 実習園の保育について疑問に思ったことがありますか
7. 幼稚園と保育所の実習で特に違いを感じた点はどのようなことですか
8. 幼児との接触で、感銘を受けたことや印象に残っていることがありますか
9. 実習について保育所に望むことがありますか
10. あなたにとって保育所実習はどのような意義があったと思いますか
11. 幼稚園、保育所、施設の実習をおえて、あなたは幼児教育についてどのような意見を持っていますか。また、入学当初と現在では保育者という職業について考え方は変わりましたか。
12. 短大の幼児教育についてのカリキュラムで望むことがありますか

別紙 実習内容の記録

〈例〉

日	クラス	年 齢	時 間	
1			幼児の活動	
日			保育の役割	

〈活動内容〉

日	クラス	年 齢	時 間	
1			幼児の活動	
日			保育の役割	
2			幼児の活動	
日			保育の役割	
3			幼児の活動	
日			保育の役割	
4			幼児の活動	
日			保育の役割	
5			幼児の活動	
日			保育の役割	
6			幼児の活動	
日			保育の役割	
7			幼児の活動	
日			保育の役割	
8			幼児の活動	
日			保育の役割	

9 日		幼児の活動	
		保育の役割	
10 日		幼児の活動	
		保育の役割	
11 日		幼児の活動	
		保育の役割	
12 日		幼児の活動	
		保育の役割	
13 日		幼児の活動	
		保育の役割	
14 日		幼児の活動	
		保育の役割	
15 日		幼児の活動	
		保育の役割	
16 日		幼児の活動	
		保育の役割	
17 日		幼児の活動	
		保育の役割	
18 日		幼児の活動	
		保育の役割	
19 日		幼児の活動	
		保育の役割	